

(様式第 1 3 号)

## 学 位 論 文 要 旨

氏名： 李明圓

題目： 中国の消費需要に関する計量経済学的研究  
(Econometric Study on the Consumer Demand in China)

中国は世界の全人口の約 2 割を占め、食料の生産額、消費額とも世界最大である。したがって、中国における市場経済改革の深化と対外開放による穏やかな拡大に伴い、中国の消費問題は必然的に国際社会の広範な関心事となっている。さらに、急激な都市化、工業化を推し進める中国では、国民所得の増加に伴う生活様式の変化によって、消費需要も今後さらに変化を遂げると予想される。本研究は中国における消費需要の発展を科学的に把握し、様々な時期の消費需要を確実に予測することは、中国に対する経済発展の促進及び国内経済格差を縮小することに大きな意義がある。

本研究では、まず、中国消費需要の各要素から効果影響力が高い都市部における家計食料需要の特徴から着手し、中国の食料動向を分析する。中国の食料事情は隣国の日本を含む世界各国にどんな影響を与えるか中国の食料需要現状を把握し検討する。次に、飲食構造がかなり近い隣国とした日本の食料品目を考慮して中国の食料需要と比較する。中国と日本の地域格差により、両国の食料需要はどんな関係があるか研究を行う。最後に、中国と隣国の地域格差を検討するため、中国各消費財の効用影響が大きい諸費目を対象とした中国都市部と農村部の家計消費需要を比較する。地域の消費特徴を考慮しながら、中国国民の消費需要を体系的に分析する。

以上のような問題意識のもとで、本研究の各章は次のような手順で研究を行う。

序章では、本研究の背景、研究目的および本研究の位置づけ、研究内容及び方法、先行研究、本研究に関する構成、期待できる結果について述べる。

第 1 章では、近年の中国都市部における家計食料需要を計量的に分析する。観測時点は 2001 年から 2012 年までの 12 年、分析対象財は中国都市部の穀物、食用油、肉類、卵類、水産物、野菜、果物、外食の 8 品目とした。世帯規模と時間の効果を考慮したことが本研究のモデルの特徴の 1 つであるが、これらの効果を考慮していない先行研究よりも推定結果は良好であった。本章で特徴的な結果は、水産物の食料支出弾力性は弾力的で、食料支出が上昇するとそれ以上の割合で水産物需要が増加することを示しており、このことは経済成長に伴う中国の水産物需要の急増を裏付けている。日本では動物性タンパク質の多くを魚介類から摂取しており、多くの日本人の食生活が影響を受けることになる。中国の水産物需要増大は、日本に水産物価格の上昇をもたらし、日本の消費者に影響を与える。

第 2 章では、中国と日本の食料消費を比較・考察している。観測時点は 2001～2012 年、観測地点は日本の 51 地域と中国の 31 地域で、分析対象財は第 1 章で取り上げた 8 品目に酒類を加えて 9 品目とした。穀物、食用油、卵類などは両国とも必需財の性質を示している。

しかし、外食の食料支出弾力性について中国は日本より非弾力で、また外食需要の年次変化率についても、中国の増加トレンドが日本より4倍ほど大きい。このことは、日本よりも中国の方が外食に対する依存度が高く、経済成長に伴って中国の外食需要がカジュアル化していることを裏付けている。そして地域差の観点からみると、両国とも沿岸地域において水産物に対する需要が大きく、寒冷地域の東北地方において酒類に対する需要が大きいという共通の結果がみられる。両国とも首都と各地域間に有意な差が存在しているが、中国における需要の地域差は日本における地域差の約4倍の大きさがある。

第3章では、都市部と農村部の所得格差が世界最大の国のひとつである中国における都市部と農村部の家計消費需要を比較する。支出弾力性、非補償価格弾力性、および補償価格弾力性の推定値にみられる都市部と農村部の差には、両者の所得格差だけでなく、インフラなどの格差も反映されていると考えられる。すなわち、都市部では所得水準の高さや整備されたインフラを反映して、食、ファッション、インテリア、健康、娯楽教育文化に対する意識が高い。一方、農村部では所得水準が低くインフラの整備も進んでいないため、娯楽教育文化や住居の贅沢品的性格が相対的に強く、保健医療、交通・通信、住居の需要が自己価格変化の影響を受けやすい。所得水準やインフラ整備水準の低さは、品目選択の自由度を制限する。その結果、農村部では都市部よりも品目間に多くの補完関係がみられる。また、都市部でも農村部でも、生命維持に最も不可欠な財である。食料の消費意欲が、北京市は他地域よりも小さく、チベット自治区は他地域よりも大きい。対照的に、保健医療と娯楽教育文化の消費意欲が、北京市は他地域よりも大きく、チベット自治区は他地域よりも極めて小さい。

終章では、本研究の結論及び研究特徴をまとめるとともに、中国の消費需要に関する今後の研究の展望を整理する。また、中国の地域格差の変化動向に関する計量分析、地域格差を縮小する開発政策に関する研究は今後の課題とした。